

議 事 要 旨

区 分	摘 要
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 緩和ケア部会会議
日 時	令和2年1月28日(火) 19:00～21:00
場 所	徳島大学病院日亜ホールBlue (外来診療棟5階)
出 席 者	宮本会長、寺嶋部会長(緩和ケア部会)、井上委員(徳島大学病院)、大田委員(徳島大学病院)、片岡委員(県立中央病院)、安藤委員(県立三好病院)、佐藤委員(徳島赤十字病院)、町田委員(徳島赤十字病院)、片山委員(徳島市民病院)、豊田委員(県医師会) 福川委員(県介護支援専門協会)、東山委員(県歯科医師会)、荒瀬委員(近藤内科病院)、米川委員(患者会)、鎌村委員(徳島県保健福祉部、岩下委員(県薬剤師会)、延委員(吉野川医療センター)、坂野代理(県立海部病院)
欠 席 者	川人委員(徳島大学病院)、山村委員(徳島県鳴門病院)、藤原委員(阿波病院) 八木委員(県医師会)、郡委員(県看護協会)
陪 席	徳島大学病院：三木看護師長、宮越技術補佐員 徳島県保健福祉部：前田氏 徳島県医師会：大門氏、玉木氏
議 題	<p>寺嶋部会長の進行のもと、徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会が開催された。</p> <p>【報告事項】</p> <p>○都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会報告</p> <p>寺嶋部会長から、令和元年12月8日に国立がん研究センターで開催された「令和元年度第7回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会」について、別紙資料に基づき次のとおり報告があった。午前中はワークショップが開催された。午後から議事次第のとおり開催された。①都道府県単位で取り組む緩和ケアの質の向上について、拠点病院・都道府県・全国レベルで求められているPDCAサイクル確保の体制の説明があった。今後、徳島県でも取り組んでいかなければいけない課題である。②緩和ケアチーム研修会の取り組み紹介が滋賀県からあり、和歌山県からは、緩和ケア提供体制に関するピアレビューやPDCAサイクルの確保に関する取り組みがあった。③アドバンス・ケア・プランニングについては、神戸大学病院の取り組み紹介があった。④地域で取り組むアドバンス・ケア・プランニングとして、青森県立中央病院から青森の地域緩和ケア連携調査員たちの活動紹介があり、青森県立中央病院監修のビデオ制作の紹介と配布について説明があった。</p> <p>(都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会資料については https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/p_care/shiryo7.html参照)</p> <p>寺嶋部会長から、青森県立中央病院監修のビデオをいただいていたため、閲覧されたい方は事務局まで申し出てほしいとの説明があった。</p>

○各病院の現状報告

各委員から別紙資料1に基づき各施設の現状報告があった。

(徳島大学病院 井上委員)

別紙配布資料参照：緩和ケアチームの活動は、資料を参照していただきたい。今年度は、アドバンス・ケア・プランニング研修会を5回シリーズとして実施した。また、緩和に関する地域連携カンファレンスも昨年度に引き続き今年度も7回実施した。県内の医療従事者が多数参加したとの報告があった。

(徳島赤十字病院 町田委員)

別紙配布資料参照：緩和ケアチーム新規依頼は4月～12月までで約70件程度、緩和ケア診療加算は行っていない。介入件数については診断時から治療中での件数が多い、苦痛のスクリーニングシートについては、外来と病棟でも配布を行っている。また、今年度はアドバンス・ケア・プランニング研修会を1回行ったとの報告があった。

(徳島県立中央病院 片岡委員)

別紙配布資料参照：2019年1月～11月の緩和ケアチーム新規介入患者が150件、緩和ケア診療加算件数は1190件である。その他の取り組みとして、がんサロンは毎週金曜日に開催している。緩和ケア連携症例検討会は9回開催を行った。在宅緩和ケアを支える多職種のための研修を今年度は9回目で参加者は50名であった。その他がん緩和ケア研修会、リレー・フォー・ライフへの参加、キャンサーボードなどへの参加も行っている。また、地域連がん診療連携拠点病院(高度型)として緩和ケアセンター設置や緊急緩和ケア病床の運用も行っているとの報告があった。

(徳島市民病院 片山委員)

別紙配布資料参照：緩和ケア診療加算も算定しており、介入件数については緩和ケア病棟でも行っているため治療終了後が多い。緩和ケア病棟の平均在棟日数は20.2日、年齢では平均73.6歳、臓器別では消化器が多い。また、死の臨床研究会中国四国支部会を2019年5月に徳島大学で開催した。ホスピス緩和ケア協会四国支部会を2020年8月に当院で開催予定であるとの報告があった。

(阿南医療センター 寺嶋部会長)

別紙配布資料参照：緩和ケア外来を月木金の午前中に予約制で行っている。緩和ケアチームも活動しており入院患者に対応、がんサロンも第3水曜日に緩和ケア相談室にて開催している。緩和ケア病棟については令和2年4月に開設予定で15床、無料個室として運営予定である。6月に緩和ケア病棟として申請予定である。当面は院内診療科に紹介いただき緩和ケア内科と共診とする形で入院を受け入れる方針であるとの報告があった。

(徳島県立三好病院 安藤委員)

緩和ケア診療加算は増えていない。緩和ケア病棟は21床で行っており、平均15床から16床は使用されている。4月からの活動としてシラバスを作成して研修施設として行う予定であるとの報告があった。

(徳島県立海部病院 坂野代理)

当院では訪問看護も行っており多職種で活動をしている。オピオイドは依頼を受けて行っているがラウンドは行えていない状況である。勉強会も少人数ではあるが行っているとの報告があった。

(吉野川医療センター 延委員)

今年度、がん性疼痛認定看護師の研修を修了してきた。認定試験は今年受ける予定である。吉野川医療センターでは、緩和ケアについては充分ではないため、今後は緩和ケアチームを作ったり研修会も行っていきたいとの報告があった。

(近藤内科病院 荒瀬委員)

別紙配布資料参照：2019年実績として緩和ケア病棟は20床で稼働率は86%程度である。平均滞在日数は44.4日、新規入院患者数は157名、平均年齢74.2歳となっている。紹介元はがん診療連携拠点病院から80件、他の医療機関から77件である。在宅復帰率は23.8%程度。死亡退院が123人、緩和ケア病棟入院相談件数が161件(うち拠点病院89件)である。また、令和2年1月18日に徳島県医師会で緩和ケアの講演会を開催したとの報告があった。

寺嶋部会長から、緩和ケア病棟入院料の算定が30日以上になると点数が下がるため、どうされているのかとの質問があった。

片山委員から、現実的には在宅復帰が維持できなかつたりして稼働率が下がった。なお次回の診療報酬改定で緩和ケア病棟入院料が3つに分かれ変わるようであるとの情報提供があった。

安藤委員から、緩和ケア病棟は療養の病院ではあるが長期にならないようには努力を行っているとの回答があった。

荒瀬委員から、当院は緩和ケア病棟入院料1の届出を行っている。退院を受け入れていただけない方もおり、できる限り長期にならないよう在宅やグループホーム等の施設に行っていたり工夫をしているとの回答があった。

○緩和ケア研修会報告について

寺嶋部会長から、添付資料P16に基づき2019年度緩和ケア修了者の報告があった。

①2019度は徳島大学病院29人(うち医師・歯科医師以外2人)、県立中央病院27人(うち医師・歯科医師以外2人)、徳島赤十字病院28人(うち医師・歯科医師以外3人)、徳島市民病院18人(うち医師・歯科医師以外3人)、県立三好病院12人(うち医師・歯科医師以外3人)の受講修了者であった。

②今年度から各病院、新指針のe-learningで開催した。また、今年度より医師以外に医療従事者も受講可能となった。

寺嶋部会長から、緩和ケア研修会について意見などないかとの質問があった。

片岡委員から、事前にe-learningを受講してからの参加となっており、e-learningの内容を忘れてしまう方もいるため、当日はe-learningの内容も少し行ったとの意見があった。

寺嶋部会長から、薬剤師会や介護支援専門員の方にも緩和ケア研修会の案内があったのかとの質問があった。

岩下委員から、前回の会議で案内があり周知は行ったが、緩和ケア研修会の受講や緩和ケアに対して個人差もあり、なかなか受講までに至っていない。この緩和ケア研修会はがん診療連携拠点病院の方は積極的に受講されているが、地域の個人病院の関係者は受講されたりして進んでいるのかとの質問があった。

徳島県立中央病院有馬氏から、進んでおり地域の医師や在宅の医師も受講されたりして

いる。この緩和ケア研修会はがん性疼痛指導管理料の算定の要件ともなっているため、受講されている医師も多い。緩和ケア研修会に今年度から医師以外にも医療従事者の受講が可能となった。看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなども可能であるとの回答があった。

福川委員から、介護支援専門協会でも緩和を盛り込んで研修会を行っているが、がん診療連携拠点病院が主催の緩和ケア研修会は積極的な参加に一步踏み出せていない。緩和ケア病棟から在宅への復帰率が低いとの話であったが、在宅へ帰っていただくには入院中からケアチームを構成して安心して帰っていただくのがベストではないか。私たちが思っている思いと医療機関の思いに温度差があるのではないかとの意見があった。

寺嶋部会長から、今年度から新指針のe-learningで開催を行った。最初の開催となったため、医師以外の定員数を少なくして案内をしていなかったのかもしれない。次回からは案内も積極的に行っていきたいとの意見があった。

東山委員から、把握は出来ていないが案内がどのように来ているか確認したいとの意見があった。

○徳島県医師会緩和ケア小委員会報告について

寺嶋部会長から、別紙資料に基づき徳島県医師会緩和ケア小委員会報告があった。

- ①毎年行っていた「緩和ケアフォローアップ研修会」の予算が今年度までとなる予定である。
- ②今年度の「緩和ケアフォローアップ研修会」は「ディグニティセラピーワークショップ」を開催した。参加者は多職種で40名程度の参加があった。
- ③エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座を開催している。

【協議事項】

○来年度の緩和ケア研修会について

寺嶋部会長から、来年度の緩和ケア研修会の日程はある程度決まっているのかとの質問があった。

片岡委員から、徳島県立中央病院は令和2年6月28日(日)開催を予定しているとの報告があった。

町田委員から、徳島赤十字病院は9月後半か10月前半に開催を行う予定で検討中であるとの回答があった。

片山委員から、ホスピス緩和ケア協会四国支部会を2020年8月に2週連続で行う予定であるため、徳島市民病院は通常9月前半に行っているが9月前半か1週遅らせて開催するか検討しているとの回答があった。

徳島大学病院宮越技術補佐員から、徳島大学病院は緩和ケア専従医師が異動となり新しく就任する専従医師と4月以降に検討を行う予定であるとの回答があった。

安藤委員から、徳島県立三好病院は10月後半か11月を予定しているとの回答があった。

【その他】

○ACPパンフレットについて

寺嶋部会長から、アドバンス・ケア・プランニングのパンフレットについて徳島赤十字病

院から検討課題をいただいているとの報告があった。

町田委員から、徳島県立中央病院が製作・作成をしている【「もしもの時」のために】が医療従事者の研修会や県民対象の講演会等で配布をされており広まっているため徳島県統一として使用させていただきたいとの要望があった。

寺嶋部会長から、徳島県立中央病院が製作・作成し、講演会やイベントなどで15,000冊程度配布を行っているとの報告があった。

鎌村委員から、徳島県としてもアドバンス・ケア・プランニングを知っていただくことや理解をいただける方法など工夫していかなければいけない。徳島県統一として使用できることはいいのではないかとの意見があった。また、徳島市医師会も独自で作成をされていたため、意見を伺いたいとの要望があった。

豊田委員から、アドバンス・ケア・プランニングについては多職種が集まり勉強会などを行ってきた。当時は、各病院がそれぞれ作ることで統一にしないでいいのではないかとのことで徳島市医師会が作成した。配布は早すぎず遅すぎずケアマネージャーが介護保険を使う場合に使用してはどうかとのことで進めてきたとの報告があった。

寺嶋部会長から、徳島県統一で使用できるようにワーキンググループを立ち上げて内容の見直しを行いたい。費用に関しては各がん診療連携拠点病院の費用で行っていただき、徳島県がん診療連携協議会にて統一で使用するか議題に上げたいとの要望があった。

町田委員から、ぜひ統一で作成できるようにしていただきたいとの要望があった。

○徳島県緩和ケア合同webカンファレンスについて

寺嶋部会長から、インターネット会議ソフトを使用してweb中継を月1回第2水曜日の17時半から25分間を臨床倫理WEB事例検討の前に行っていた。トラブルはあったが、何とか情報共有ができる感触を得た。しかし、25分では十分な議論する時間が取れなかったため、時間帯と時間幅を変更するために関係者にアンケートを行い、毎月第4木曜日18時から19時の開催することにしたい。全国レベルで求められている県単位の緩和ケア質向上の取り組みの一環になる。ついては、各拠点病院の緩和ケアチーム当番制で運営を行っていきたいため、ご意見いただきたいとの要望があった。

町田委員から、今まで参加していたがなかなか多職種の参加が難しいがwebカンファレンスができることはありがたいとの意見があった。

安藤委員から、web会議システムのトラブル等があるため、改善していただければとの回答があった。

寺嶋部会長から、以前使用していたシステムの変更を行ったため改善された。初参加の方は、事前に操作方法など確認をしていただきたい。また、一斉に発言を多数の方が行うとトラブルとなるため、発言者以外はマイクスイッチをミュートにしていればスムーズに使用できるとの説明があった。

豊田委員から、参加しているが現在6施設程度が参加を行っているが、今でもトラブルもありこれ以上施設が増えるとさらにシステムトラブルの原因になるのではないかとの質問があった。

寺嶋部会長から、徳島県立中央病院のシステムを使用しているため確認をして、検討を行いたいとの回答があった。

米川委員から、緩和ケアについては患者側からがん相談支援センターの場所等で要望を

行うのか、がんの疾患により患者は必要とするケアがそれぞれ違うのではないかと、患者の意向を収集されているのかとの質問があった。

寺嶋部会長から、患者さんは主治医と看護師との間で相談されているのではないかと、それ以外の意見を聞きたい場合は、がん相談支援センターなどで相談を行ったり、セカンドオピニオンを受けたりしているのではないかと回答があった。

米川委員から、それぞれの疾患により日常の治療の中で受ける緩和ケアもあり、医療従事者がどのような考えで研修会や勉強会を企画したりしているのか意見を聞いたかとの要望があった。

片山委員から、添付資料P18～19に基づき説明があった。

- ①令和2年3月14日～15日に「コミュニケーション技術研修会」を開催する予定である。
- ②徳島患者-医師間のコミュニケーションの質の向上を目的とした研修会である。

寺嶋部会長から、ぜひ参加をいただきたいとの要望があった。

米川委員から、「徳島県医療関係者とがん患者会等とのネットワーク構築研修会」として令和2年3月16日(月)にグランヴィリオにて18:30～20:30で開催を行う予定である。案内ポスターはまだ出来上がっていないが今回は、県会議員、企業、メディアの方にも参加いただき開催を行う予定である。災害などの緊急時にがん患者さんがどのようにすればいいのか、対応可能な徳島県の対応などについて討論できる場になればいいのではないかと考えている。徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会金山部会長にも相談して共催していただいている。ぜひ、理解いただき参加をいただきたいとの案内があった。

寺嶋部会長から、県南緩和ケアを考える会を令和2年3月4日(水)19:00～20:30阿南医療センターにて開催予定である。

徳島県保健福祉部前田氏から、徳島県ピアサポーター講習会を受講された方を対象にフォローアップ研修会を開催予定である。

寺嶋部会長から、日程が決まり次第案内をいただきたいとの要望があった。

続けて寺嶋部会長から、第三期がん対策推進基本計画に基づき外部講師の活用体制を整備し、がん教育の充実に努めるとされている。がん教育の研修会も行われており、今後は学校への講師依頼があれば協力いただきたいとの要望があった。

町田委員から、今年度は徳島赤十字病院でELNEC-J研修会の開催を行った。がん診療連携拠点病院で持ち回り開催を行っているため、次年度は徳島大学病院での開催となるとの報

告があった。

寺嶋部会長から、閉会の言葉があり閉会となった。